

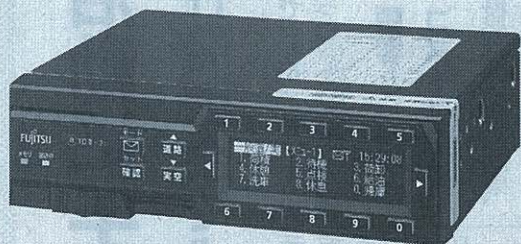
# 危険地点を音声で警告

## トランストロン

### 7月から新サービス

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、加藤祐三社長）は七月二十三日から、急ブレーキ多発地点で音声警告する機能を追加したクラウド型運行支援サービス「ITP-WebServicesPS」を開始した。車載器を通じ危険地点を知らせることで、ドライバーの安全運転、事業者の事故処理費の削減などを支援する。

（小林 孝博）



トランストロンはこれまでも、ネットワーク型デジタルタコグラフ「DTSCID」も発売し、売れ行きは好調。同社の車載器は、富士通のネットワークとクラウドを活用したリアルタイム運行支援サービスが特徴だ。

〇〇〇  
車両の運行状況を確認できるほか、手作業だった運行支援ソフト、地図情報などの更新も自動化。シスの高い危険地点に近づくと、

富士通のネットワークとクラウドを利用。ユーザーをソフト面からもサポート（写真はDTSCID）

とドライバーに音声で警告する「急ブレーキ多発マップ機能」を追加したクラウド型運行支援サービス。

危険地点のマップは、「DTSCID」一万台から集めた急ブレーキ情報を基に、サーバーに集約された大量のデータを高速で分析できる。富士通の「ビッグデータ分析サービス」を使って作成。利用者は都道府県や危険レベルごとに必要な情報を抽出し、車載器に二千人分の危険地点を登録できる。

〇〇〇  
サービス利用料はDTSCIDの場合、運行支援や地図ソフト、Q&Aなどに急ブレーキ多発マップ機能を加え、月額二千六百八十八円（税込）。

〇〇〇  
これまで同社の月額サービスを使っていた利用者は十一月末まで、急ブレーキ多発マップ機能を無料で使えるキャンペーンも実施する。

〇〇〇  
問い合わせ先は同社情報機器営業部、電話045(476)4640。

全運転強化を図るほか、事業者も事故処理費の削減や保険料の低減などにつなげることができるといふ。

危険地点の情報は月に一度、更新する。「クラウドを使ったサービスは富士通グループの強み。デジタルのデータを活用したサービスを提供することで、事業者の安全や環境への取り組みを支援していきたい」（トランストロン）。